

ミレニアム開発目標(MDGs)

2015年までに達成すべき事項として国連加盟各国が合意した国際開発目標（**MDGs**：Millennium Development Goals）。MDGsでは、8つの開発ゴールの達成を目標としており、具体的には「極度の貧困と飢餓の撲滅」「初等教育の完全普及の達成」「環境の持続可能性確保」などのゴールが設定されている。各ゴールには、2015年を目標年とするターゲット、および1990年レベルからの進捗状況を監視するための具体的で計測可能な指標が設定されている。MDGsには防災に関するターゲットは含まれていないため、次期MDGs(ポストMDGs)を睨んで、現在各種議論や取組みが行われている。

持続可能な開発目標(SDGs)

2012年6月に開催された「国連持続可能な開発に関する会議（リオ+20）」において合意された、環境の持続可能性確保に重点を置いた開発目標（**SDGs**：Sustainable Development Goals）。ポストMDGsに統合することで国内外での議論が進められている。

国連世界防災会議(WCDRR)

国連防災世界会議（**WCDRR**：World Conference on Disaster Risk Reduction）は、国際的な防災戦略について議論する国連主催の会議であり、第1回は横浜（1994年）、第2回は神戸（2005年）で開催された。第3回会議は2015年3月に仙台で開催される予定であり、第2回会議で策定された「兵庫行動枠組み（**HFA**）」の後継枠組みの策定が行われる予定である。

兵庫行動枠組み(HFA)

兵庫行動枠組み（**HFA**：Hyogo Framework for Action）は、自然災害に伴う世界の安全性を高めるために、2005年に神戸で開催された「第2回国連防災世界会議」において採択された10ヶ年の指針であり、国連総会決議A/RES/60/195によって承認されている。

HFAは、災害被害を軽減するために、2015年までにあらゆる部門・関係者が実施すべき取組みについて詳細に記載した初めての指針である。持続可能な開発の観点から、脆弱なコミュニティが災害への強靭性を実現するために、以下の5つの優先行動、指針および具体的行動を提示している。

- ① 防災を優先事項に
- ② 災害リスクを知り、行動する
- ③ 防災知識を高める
- ④ リスクを減らす
- ⑤ 事前準備をし、緊急的に行動できるよう備える

HFAは2015年に結論付けられる予定であり、現在は2015年以降の行動枠組み（ポストHFA、**HFA2**）は現在各国・各機関における調整段階にある。